



トマト

**ネマキック粒剤で
「葉のしおれなく順調に生育／
高い持続性に満足」**

千葉県富里市 **金田敏幸さん**〈トマト〉

2014年



全国的にスイカ産地として知られる千葉県富里市。同市はスイカの他にも、ニンジンやトマトなど多くの品目を生産する関東有数の園芸地帯だ。

市内でトマトのハウス栽培に取り組む金田敏幸さん(取材当時54)は、線虫防除のために「**ネマキック粒剤**」を使い「**使うようになって線虫の被害がなくなった。今では欠かせない剤**」と、その効果を高く評価する。

金田さんは、「桃太郎グランデ」「桃太郎あきな」を計43アールのハウスで栽培。線虫対策として6月末から7月初旬にかけて「D-D剤」を処理し、ガス抜きした後、7年半ばの定植前に「ネマキック粒剤」を散布する。収穫期間は9～12月で、去年は6000ケース(1ケース4キロ)を出荷した。

「過去に、ネコブセンチュウによる加害で樹勢が衰えて葉がしおれ、4段目あたりから実がつかないことがあった」と線虫対策の重要性を感じていた金田さん。「ネマキック粒剤」が上市された翌年の2011年、同剤について「**効果の持続性が高い**」との話を聞き、JAから取り寄せて早速試してみたところ、**葉のしおれもなく順調に生育し、品質・収量とも満足する収穫が得られた。「効き目が長期間続く。今年の収穫も終盤を迎えたが、線虫の被害はなかった」と優れた持続性に太鼓判を押す。**

金田さんは「定植直前まで使えて安全性が高いのも魅力。今後も使い続けたい」と話す。トマト部会でも粒状線虫防除剤を「ネマキック粒剤」に切り替えるメンバーが増えているという。

